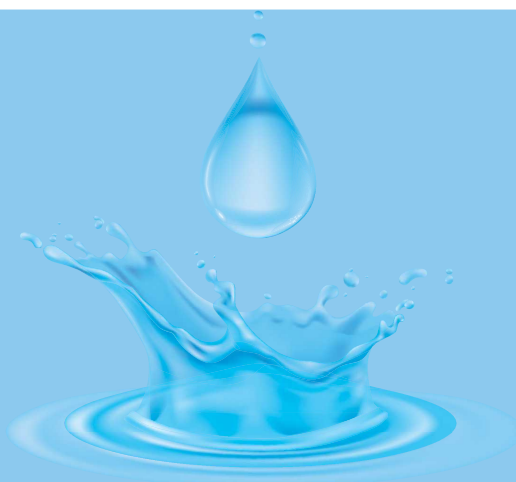




岩出市と水道事業の概要

2-1. 私たちの住む岩出市	6
2-2. 水道事業の概要	7
(1) 岩出市の水道のあゆみ	7
(2) 岩出市の水道施設	10
(3) 組織の概要	14





岩出市と 水道事業の概要

2-1. 私たちの住む岩出市

岩出市は、和歌山県の北部に位置しています。和歌山市の中心部から約15km、大阪都心部から約50km、関西国際空港からは約30kmという、とても便利な場所にあります。北は大阪府の泉南市・阪南市、南西は和歌山市、南東は紀の川市と接しています。

通勤や通学、お買い物にも便利な立地

和歌山市や泉南地域、大阪都市圏へのアクセスが良く、大阪から和歌山への玄関口として発展してきました。平成29(2017)年3月には、岩出根来ICから和歌山JCTまでが開通し、京奈和自動車道が全線開通しています。交通の便がさらに良くなり、物流センターなども整備されています。

コンパクトで住みやすい市域

市の大きさは、東西に約5.7km、南北に約8.8km、面積は38.51km²です。戦後の岩出町合併当時の人口は約1万3千人でしたが、その後ニュータウン開発などが進み、人口は増え続けてきました。

令和2(2020)年の国勢調査では人口53,967人となり、平成27(2015)年からの5年間で県内最多となる515人の増加を記録しました。子育て世代にとっても魅力的なまち、活気あふれるまちとして成長を続けています。



2-2. 水道事業の概要

(1) 岩出市の水道のあゆみ

スタートは60年前

岩出市の水道は、昭和37(1962)年に町営の広域簡易水道として始まりました。事業認可を受け、水道施設の建設が昭和38(1963)年5月に完成し、当時は計画給水人口4,300人、一日最大給水量645m³でスタートしました。

人口増加とともに成長

その後、人口が増加し、生活が豊かになり、核家族化が進み世帯数が増える中で、使う水の量が急激に増えていきました。当初の計画を超える給水が必要になったのです。

そこで、昭和40(1965)年12月、給水量を増やし、給水区域を広げるため、計画給水人口20,000人、一日最大給水量5,000m³とする上水道事業の認可を受けました。

5回の拡張事業と変更で成長

昭和48(1973)年には第1次拡張事業に着手しました。以降、4回の拡張事業と変更を行い、平成23(2011)年には計画給水人口55,000人、一日最大給水量26,400m³とする第3次拡張事業の変更認可を受けました。そして平成28(2016)年4月、第3浄水場の運用を開始し、現在に至っています。

表 2-1 社会と岩出市水道事業の動き

社会・地域の動き	西暦	和暦	岩出市水道事業
根来村他3カ村が岩出町に編入	1956年	昭和31年	
	1962年	昭和37年	広域簡易水道認可
	1963年	昭和38年	簡易水道事業変更
	1965年	昭和40年	上水道事業認可(簡易水道事業変更)
大阪万国博覧会	1970年	昭和45年	
	1973年	昭和48年	第1次拡張認可
和歌山県植物公園緑花センター開園	1979年	昭和54年	
国道24号バイパス完成	1988年	昭和63年	
	1991年	平成3年	第2次拡張認可
関西国際空港開港	1994年	平成6年	
	1995年	平成7年	
阪神淡路大震災	1998年	平成10年	第2次拡張変更認可
	2001年	平成13年	
岩出町が市制施行し岩出市となる	2006年	平成18年	第3次拡張認可
那賀浄化センター供用開始	2008年	平成20年	
東日本大震災	2011年	平成23年	第3次拡張変更認可
	2016年	平成28年	第3浄水場運用開始
	2017年	平成29年	
京奈和道(紀北西道路全線)開通	2017年	平成29年	
能登半島地震	2024年	令和6年	能登半島に給水隊、応急復旧隊を派遣

表 2-2 事業認可の経緯

区分	計画値		年月日
	給水人口 (人)	1日最大 給水量 (m ³ /日)	
広域簡易水道	2,000	300	認可:昭和37年6月29日
簡易水道事業変更	4,300	645	認可:昭和38年6月24日
上水道事業 (簡易水道事業変更)	20,000	5,000	認可:昭和40年12月17日 目標年度:昭和55年度
第1次拡張	32,000	17,600	認可:昭和48年9月29日 目標年度:昭和55年度
第2次拡張	47,200	27,500	認可:平成3年8月23日 目標年度:平成12年度
第2次拡張 (変更)	50,230	27,500	認可:平成10年12月18日 目標年度:平成14年度
第3次拡張	61,600	34,400	認可:平成13年6月19日 目標年度:平成25年度
第3次拡張 (変更)	55,000	26,400	認可:平成23年5月13日 目標年度:平成32年度

(2) 岩出市の水道施設

岩出市の水道施設は、8箇所の取水施設、4箇所の浄水施設、6箇所のポンプ所、9箇所の配水池および約400kmの管路で構成されています。これらの水道施設が連携して、毎日安定した水を市民の皆さまのご家庭にお届けしています。

図 2-1 水道施設位置図



1 取水施設

取水施設は、水源から水を取り入れるための施設です。岩出市の水道は、年間を通して水温や水質の変化が少ない、良質な浅い地下水を使っています。

表 2-3 取水施設の概要

名称	水源種別	構造種別	能力	建設年度
第1浄水場1号取水井	浅層地下水	RC造	6,700m ³ /日	平成9年
第1浄水場2号取水井	浅層地下水	RC造	1,600m ³ /日	昭和50年
第1浄水場3号取水井	浅層地下水	RC造	4,100m ³ /日	平成3年
第1浄水場4号取水井	浅層地下水	RC造	2,160m ³ /日	平成17年
第2浄水場1号取水井	浅層地下水	RC造	2,700m ³ /日	昭和43年
第2浄水場2号取水井	浅層地下水	RC造	3,600m ³ /日	平成5年
中島水源地	浅層地下水	RC造	1,900m ³ /日	平成8年
第3浄水場1号取水井	浅層地下水	RC造	6,900m ³ /日	平成24年

2 浄水施設

岩出市の水道は、良質な地下水を水源としているため、岩出市では主に「緩速ろ過」という自然の浄化力を活かした方法と、塩素による消毒で水を処理しています。

また、第3浄水場では、塩素だけでは対応できない病原微生物(クリプトスポリジウムなど)への対策として、紫外線処理設備を導入しています。

表 2-4 浄水施設の概要

名称	能力	浄水方式	建設年度
第1浄水場	17,300m ³ /日	緩速ろ過	昭和55年
第2浄水場	12,900m ³ /日	塩素滅菌のみ	昭和43年
中島水源地	1,900m ³ /日	塩素滅菌のみ	平成8年
第3浄水場	6,900m ³ /日	紫外線処理	平成27年

3 ポンプ所

ポンプ所は、浄水施設で処理した飲用水を配水池などの高い場所へ送る役割を担っています。

表 2-5 ポンプ所の概要

名 称	能力	送水先	建設年度
東坂本加圧ポンプ所	2,592m ³ /日	第2配水池	平成7年
第2配水池(東坂本)送水ポンプ所	1,152m ³ /日	第3配水池	昭和51年
若もの広場中継ポンプ所	216m ³ /日	クリーンセンター配水池	昭和57年
第4配水池(紀泉台低区)送水ポンプ所	3,888m ³ /日	第5配水池	昭和56年
安上中継ポンプ所	86m ³ /日	境谷配水池	平成12年
第6配水池(桜台低区)送水ポンプ所	3,312m ³ /日	第7配水池	平成6年

4 配水施設

配水池は、必要な水圧を確保するため高所に設けられ、ポンプ所から送られてきた水を一定量貯めておく施設です。これにより、市民の皆さまのご家庭に安定して水をお届けしています。

表 2-6 配水施設の概要

名 称	構造	容量	建設年度
第1配水池(船戸)	PC造	600m ³	昭和59年
第2配水池(東坂本)	PC造	1,120m ³	昭和51年
第3配水池(根来)	PC造	786m ³ (300・486)	昭和51年 / 平成4年
第4配水池(紀泉台低区)	PC造	6,000m ³ (3,000×2)	昭和56年
第5配水池(紀泉台高区)	PC造	2,000m ³	昭和56年
第6配水池(桜台低区)	PC造	6,000m ³ (3,000×2)	平成5年 / 平成9年
第7配水池(桜台高区)	PC造	2,000m ³	平成6年
クリーンセンター配水池	SUS製	300m ³	平成19年
境谷配水池	FRP製	51m ³	平成12年
合計(容量)		18,857m ³	

5 管路

市民の皆さまのご家庭に水を届けるため、市内には大小さまざまな管路が地下に張り巡らされており、総延長400kmにおよびます。太い幹線から細い枝管まで、それぞれの役割を持って水を運んでいます。

管路の材質は、丈夫で錆びにくいダクタイル鋳鉄管が大半を占めています。

図 2-2 管径管種ごとの延長の分布図

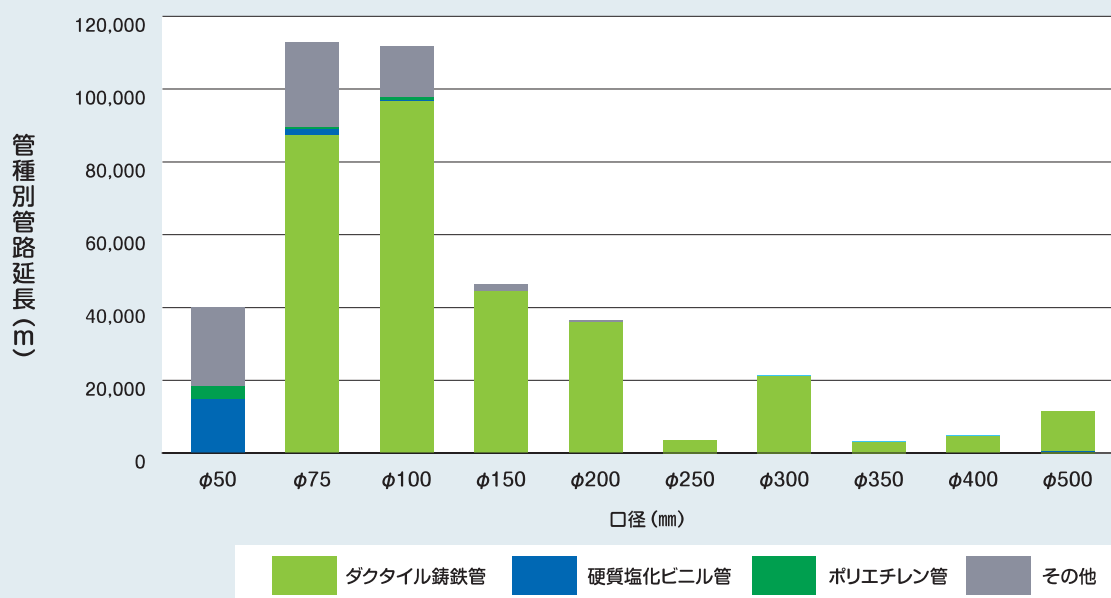
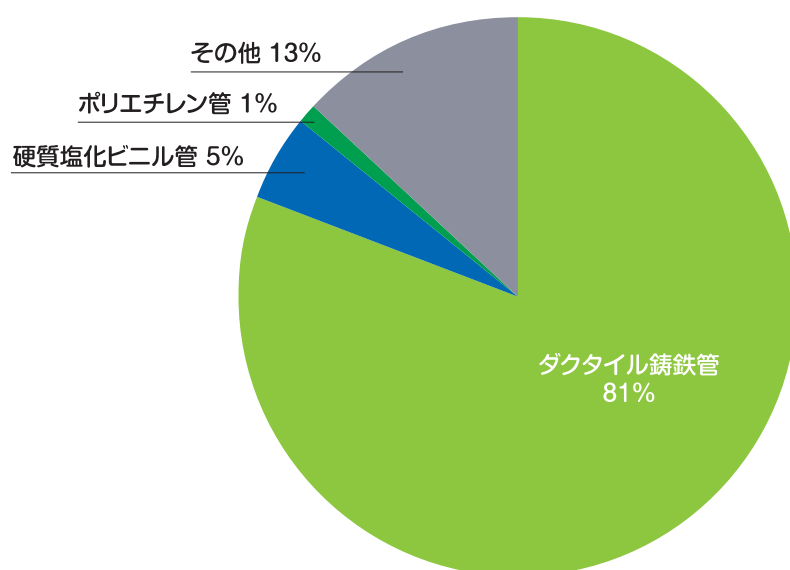


図 2-3 管種別の布設割合



(3) 組織の概要

岩出市の水道事業は、上下水道局が担当しています。上下水道局には3つの課があり、それぞれの専門性を活かして業務にあたっています。職員数は全体で28人、うち上水道関係職員は15人です。

図 2-4 上下水道局の組織図(令和7(2025)年12月時点)

